

編集後記

- ・昨年に続いて今年も3名の翔友を喪った。歴史を重ねると、致し方が無いことではあるが、痛恨の極みである。残念なのは、明石先輩の追悼文を掲載出来なかったことである。先輩を知る方々の多くが鬼籍に入られ、ご存命であってもご高齢のため、無理にとはお願ひ出来なかった。
- ・部員、OB 挙げて待望の新機体の購入が実現、記事中にある通り、慣例に則って AION III と命名された。本誌がお手元に届く頃、木曾川の上空を舞っているはずである。これで妻沼に行っても、性能では他校に引けは取らない。後は部員がその性能を十分に発揮させ得る技量に達せられるか否かに係っている。全 OB が期待と共に注視している。この機体を乗りこなすには相当な腕を要求される。「宝の持ち腐れ」だけにはして欲しくない。
- ・昨年に引き続いて全国大会で6位入賞の健闘を見せてくれた。期間中の関東平野は連日の雪、雨、強風が襲い、競技が可能であったのは8日間の内4日間、まともに競技会らしい気象条件になったのは最終日の1日のみであった。この1回のチャンスを逃さず、3年生の竹山君が6位入賞を果たしたのは、正に「勝ちに行く!」という執念によるものと云えて、立派である。
- ・さあ、これを受けて来年はどうする。竹山君はもう一度チャンスがあるが、続く3年生は、先輩が残した2年連続6位入賞の実績を越えねばならない課題を背負うことになった。部員全員が同じ目標を持ち、その達成への努力を共有する自覚に欠ける状況が部内にあると仄聞する。もしも事実であれば、その状況を打破しないと団体で更なる上位に喰い込むことは難しい。
- ・今年も関東スポーツユニオンから6名の先輩達が応援に駆けつけて下さった。応援団 OB の藤田先輩が掲げる大応援団旗のもと、ラグビー部 OB 高道、狩野、出石の三先輩、ソフトテニス部藤野先輩、弓道部 OB 村上先輩の方々から力強い応援を頂いた。厚く感謝し、御礼申し上げます。我が部の OB も含めて、参加校中最大の応援団であり、誇らしかった。
- ・母校の活躍を期待し、応援しているのは、何もその部の OB だけではなく、全同志社人が諸君の活躍を祈って一喜一憂しているということが、目に見えて認識出来たであろう。これが体育会に所属するということである。部員は肝に銘じるべし。
- ・来る年は愈々創部75周年である。記念事業実行委員会では着々とその準備が進んでいる。ご無理をお願いしている寄付金も多くのご賛同を得ているものの、まだまだ不足している。特に平成以降の OB の協力が芳しくない。自分が現役の時に航空部を通して先輩から受けた恩恵を後に続くまだ見ぬ後輩のために同じ事をして返してやるのが先輩の務めであり、自分が果たせなかった夢を後世に託すことに繋がることになるのではないかと思う。
- ・ともあれ、来秋の祝賀会で多くの翔友にお会いすることを楽しみにしつつ、本誌をお届けする。ご健勝にて。

翔友 XXV 〈非売品〉

平成22年 5月31日

編 集 翔 友 会

発 行 同志社大学体育会航空部

印 刷 河北印刷株式会社

京都市南区唐橋門脇町28番地
